

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300114		
法人名	特定非営利活動法人 ファインケア		
事業所名	松岡グループホーム		
所在地	富士市松岡1231-1		
自己評価作成日	平成22年3月31日	評価結果市町村受理日	平成22年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=2292300114&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>昨年度は、①理念の構築②リスクマネジメントの強化③医療との連携強化④家族への働きかけ⑤管理業</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自己評価会議を6回全職員で繰り返し行い、その中で職員の気持ちが一つとなった。また、業務への意識改革も同時に進み、利用者に関わる際の姿勢がさらに明瞭になった。特に、職員の此処は職場という意識(プロ意識)と利用者の生活の場という認識とのバランスをもてるようになったことが最も大きな成果だった。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・倫理規定を職員と共に創り出し、実践の柱としています。現在の運営理念・倫理規定を基盤として実践の中から改定をはかりたいと考えています。	「認知症ケアにおいて大切にしていること」 「ケアの基本的考え方や拠り処」をその理由とともに職員一同で話し合い作り上げた理念で愛着があり、言動レベルまで共有化できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花壇作りや散歩の機会にご近所の方と声を掛け合っています。また、近隣のコンゴニエンスストアへ買い物に出かけています。	散歩コースでは顔なじみが増え、大根やトマトを頂くこともある。富士見高校(福祉コース)は実習受入からのご縁で、体育祭へ招待されたり、生徒が休日にボランティアに来てくれるなど、双方向の交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催を計画しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族の方が参加しています。健康管理についての関心が高かったので往診医との契約しました。	2ヶ月に1回必ず開催している。メンバーは市の担当者、区長、民生委員や家族など。	出席できない家族の意見、要望を聞く仕組みを検討されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富士市では運営推進会議に行政担当者が参加しています。運営報告をしたり、行政の意見を聞く機会となっています。	課題があれば都度相談に出向いており、担当者も丁寧に調べて教えてくれる。また、担当者とは事業所のことだけでなく地域づくりについての話もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルを作成し、職員に周知徹底をはかっています。	夜間は20時以降は施錠するが、日中は鍵はかけない。ケア会議が月1回あり、この時にフィジカル、ドラック、スピーチいずれについても話し合い、意識し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたる行為を具体的に示し、禁止すると共にストレスケア(個人面接)に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強中ですが、利用者の基本的参政権を守りたいとは考えています。選挙には希望者に職員が付き添っていくようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約にいたるフローを作成し、説明と合意形成のプロセスを提示しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族要望書を作成し、6ヶ月に1度意見聴取の機会を設けています。また、毎月介護相談員の訪問を実施しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を開催し、職員の意見交換の場を設けています。	意見がでにくい人にも必ず1回は発言してもらおうようにしている。また、会議では合意形成に十分配慮している。	和気藹々とした自由な雰囲気なだけに、あらたまった個別面談の機会をやることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規定の制定、評価制度の導入等を検討しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員評価モデルを作成し、研修計画に反映させると共に自己評価の指針としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市グループホーム連絡会に加盟し、交流会交換実習を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時アセスメントによってリロケーションダメージをできるだけ緩和できるよう情報の共有化、対応方法の検討に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時アセスメントによって家族の状況を把握し入居後も良好な関係を維持できるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時アセスメントシートによりご本人、家族のニーズの把握に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の支援において単なる介助、作業に終始してしまわないように、意思確認、選択肢の提示等かかわることを大切にしています			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のケアを行うと同時に家族ならではの役割を模索し、提示しています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にはできるだけ使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただいています。また、家族が訪問しやすい雰囲気づくりに努めています。	墓参りなどの支援をしている。他には、日頃の会話から確認できた場合には、馴染みのおやつや飲み物を用意するようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーション・イベント等の機会においてそれぞれの能力・好みに応じた参加の方法を検討しています			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養など他の施設に移る場合は、サマリーを作っています。自宅に戻られた利用者さん宅を散歩の帰り道に寄ることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における利用者のことばからそのことばの背景、表出されない思いなどを汲み取るようにしています。	思いや意向には可能な限り応えている。例えば自宅が空家になっている庭の草取りの要望には、職員が業務を抜けられないので代表者が対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴シートを記入していただきご本人からの聴取と併せてケアプランの作成に反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員にアセスメントシートを渡し、情報収集に努めています。また、できるだけご本人の言葉を聴取しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族要望書、アセスメントシート、主治医意見等を集約し、多角的な視点からケアプラン作成に努めています。	「私らしい生活」「私の安心…」という事業所独自の、利用者本位の5つの視点に添って、全員がアセスメントシートを作成する。それらを管理部長が取りまとめ、情報の共有化資料が準備できた上で会議に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・排泄状況・バイタルサインを記録し、ケアプランの内容に沿って支援を行うとともに評価もあわせて行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	農家だった利用者が土いじりをされたいと希望されたので、事業所の花壇を畑にしました。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校と交流を始めています。学校行事への参加と高校生の訪問が行われています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人家族の意向は尊重しながら、契約医を紹介し、説明と合意の上で主治医の変更を行っています。	月2回、かかりつけ医の往診がある(24時間対応)。また、歯科医とも提携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が月2回あり、現在特に看護職との連携をとっていません。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	富士市内の病院のソーシャルワーカーとはいつでも連絡が取れる体制になっています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作り始めていますが、事例はまだありません。	これまでは契約時に特に話し合っていない。家族の意向を重視し、都度対応している。また、日々の生活の延長戦上にその方の最期があるのが望ましいと考えており、今の時の関係を大切に思っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し、シミュレーションを繰り返し行っています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の防災避難訓練を実施しています	暖簾と絨毯を防災用に替えている。天井が高いためか、寒さを感じやすい利用者もいるので暖房機器の購入を考えているが、こちらも火災に配慮し検討していきたい。	炊き出しなどのプラスαを工夫し、防災避難訓練を近隣住民とともに取り組むことを期待する。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアプラン作成過程に参加し一人ひとりの人格を把握し、尊重すると共にプライバシーマニュアルを周知徹底しています。	呼び方は「なんとお呼びしたらいいでしょうか」と確認するようにしている。希望が特にならない場合は、本人が呼ばれてわかる名前を優先している。また、「見守りと監視とは異なる」ことなど基本的なことから月1回のケア会議で研修を話し合っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向の確認、選択肢の提示、合意形成を大切にするとともに意見や希望を言いやすい雰囲気づくりに努めています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や日課を優先するのではなく、グループホームは利用者の生活の場であることを職員一人ひとりが理解しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントや外出時にはおしゃれができるように支援しています。日常生活においても季節感や天候に合わせた身だしなみを支援しています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人のできること、できそうなことをアセスメントし、役割を担うことによって、充実感、達成感を実感できるように積極的に評価することを実践しています。	利用者にはもやしやひげとりなどの下ごしらえを手伝ってもらっている。また、下膳や食器洗いなども出来る人は率先してやっている。干し柿づくりなど、おやつも皆で楽しみながら作っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食品ごとのカロリー量を作表し、1日の摂取量の目安にしています。水分摂取量は湯飲みの内容量を測定し、把握に努めています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをして歯磨きを励行しています。介助が必要な方には必要なケアを行っています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、プライバシーに配慮し声かけやトイレ誘導を行っています。	便と水分のチェックをし、状態の変化に対応できるようにしている。また、スムーズな促しができるように職員は利用者の言動に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘傾向にあれば食物繊維、水分摂取、運動を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の意向を確認し、尊重しています。入浴への意欲がない方には、意欲を引き出すような働きかけを工夫しています。	おおよそ1日おきとしているが、本人の意向を重視している。順番なども利用者と都度相談している。浴剤の種類を取りそろえ楽しんで入浴してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムと体調を把握し、必要に応じて就寝支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋を周知し、疾患と薬効の関係を把握します。コンプライアンスを周知徹底し、誤薬のないように努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に提出して頂いた生活歴に基づき特技や趣味、職歴等から一人ひとりの楽しみと喜びを創り出せるように配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月のイベントへの家族の参加を促し、利用者の希望を実現できるように企画しています	「1月は初詣」というように月の冠外出イベントを企画している。日々には近所の散歩や衣類の買い物ツアー、スーパーマーケットの袋の詰め放題なども出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にとって買い物の機会は社会参加、自己決定、楽しみの実現の機会であり、大切にしています。又能力を勘案して必要な支援を行っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はプライバシーが保たれるように子機を用意し、居室で通話できるようにしています。手紙は切手の購入、投函など必要に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔であること、障害物がないことを基準として、さらに季節感を醸し出す掲示物等を作成し生活の彩としています。	「清潔で安全な空間をつくりましょう」というのを行動指針としている。また、事故点検シートなどで環境の安全をチェックしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所のソファの座り場所の工夫、食堂の席の配慮などにより、利用者同士のかかわりが深まるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはできるだけ使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただいています。また、必要に応じて職員が利用者とともに整理整頓を行っています。	趣味のものなどが置かれ、整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力を評価するとともに所内の危険箇所のチェックを毎月行い、安全の確保に努めています		